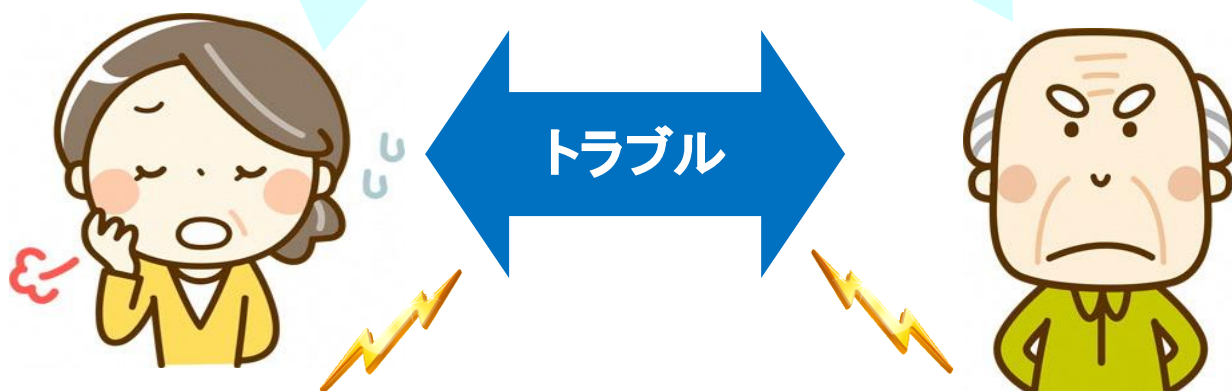


のらねこ まちの野良猫問題 なんとかならないの？



のらねこ
もともと野良猫は人が飼育放棄した生き物。
エサをあげなきゃ可哀相！

猫のフンで大迷惑
もう勘弁してほしい。
エサやり禁止！



のらねこ

野良猫は保健所が処分すべきでは？

動物の收容は、区の保健所ではなく、東京都の動物愛護相談センターが行っています。しかし、飼い猫を自由に外に出している飼い主さんも多く、外の猫は、飼い猫か飼い主のいない猫かすぐには判断がつかないため、都のセンターも原則として收容していません。

エサやりしなければ猫は減る？

エサやりを止めても、猫は動物ですから飢え死にはしません。エサやりを急に止めると、飢えて生ゴミに殺到します。また、わずかなエサをめぐるケンカが絶えなくなります。最終的には、近接地域に移動しますが、町内で迷惑動物を押し付けあっているだけで、問題の解決になりません。もちろん、移動先で繁殖し続けます。



じゃあ、どうすればいいの？

区が推奨する解決策は
裏面をご覧ください

地域で被害を減らしましょう

たくさんの猫がいる地域では、個人の力では解決が困難な状態となっています。

しかし、地域の有志で力を合わせて対策をすれば、着実に野良猫の数は減少します。

1 すべての野良猫の去勢・不妊手術をしましょう

地域の猫を調査して、すべての野良猫に去勢・不妊手術を施します。

外で暮らす猫は生活環境が厳しく、4～5年の寿命とされていますので、全頭手術が終わると着実に数が減っていきます。手術をすることで、ケンカや繁殖期の鳴き声も減少します。

2 エサのやり方を見直しましょう

①もともと地域にいる手術済（または手術予定）の猫だけに、②毎日同じ時間、③必要最低限の量のエサを与え、④猫の食後はすぐに皿を片付けて周囲を清掃します。
置きエサは厳禁です。エサを何時間も置きっぱなしにすると、不衛生なうえ周辺地域から猫が集まってしまうため、いくら手術しても猫の数は減少しません。

3 野良猫用のトイレを用意しましょう

フンの被害は深刻です。猫のトイレを設置し、被害を減らしましょう。
プランターに園芸用の土を入れ、猫のフンとまたたびを混ぜるだけで、猫のトイレになります。猫トイレの数は、地域内に多い方が効果が上がります。

区は、地域の取り組みを支援します

このような対策を行う場合、区は地域有志の方々に「登録」し、以下の支援をします。

- ① 去勢・不妊手術費用の助成（オス 5,000 円 メス 10,000 円）
 - ② 猫捕獲用の専用ケージの貸し出し
 - ③ 町会等との調整
 - ④ 活動のアドバイス
- ※ 区の登録を受けるためには、事前に練馬区保健所で説明を受けていただく必要があります。

このような活動を「地域猫活動」といいます